令和６年２月 20 日

世田谷区立千歳小学校
校長　石川　淳様

世田谷区立千歳小学校　学校校関係者評価委員会
委員長　　中西　　茂

令和５年度　千歳小学校　学校関係者評価報告

令和５年度の学校関係者評価をとりまとめましたので、以下のとおりご報告します。

この１年は、コロナ禍後の日常が戻ってきたものの、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザによる影響を意識しながらの１年だったと思います。教職員の皆様にまず敬意を表すとともに、この評価を通して千歳小学校の教育活動がより充実することを心から願っております。

◆学校関係者評価とは

【目的】

（１）　学校のよりよい教育活動の実現のため、児童・保護者・地域の意見を反映させる。

（２）　児童・保護者・地域のアンケート結果などから課題を明らかにする。

（３）　保護者・地域・学校の三者が一体となって子どもを育てることにつなげる。

【方法】

①　本校教職員の自己評価、児童・保護者・地域へのアンケート結果、授業参観や学校行事への参加、学校側へのヒアリング、今年度改善策の実行結果などから評価・考察する。

②　本校の「教育目標」「重点目標」「学校経営の基本方針」などを踏まえ、教育活動の改善、継続の仕方について提案する。

◆アンケートの集計結果

【回収人数と回収率（カッコ内は令和３年度の回収率ないし回収人数)】

児童数　800 人　92.1%（93.4%）

保護者　620 人　70.6%（26.1%）

地域　22 人（14 人）

教職員　35 人（41 人）

※アンケートはA（とても思う)、B（思う)、C（あまり思わない)、D（思わない)、E（分からない）の５段階評価とし、以下の分析では、原則としてA＋Bの肯定的回答の数値を示しています。

なお、アンケートには世田谷区共通の項目と、学校独自で設定する項目がありますが、児童アンケートは昨年度と同様、学校独自項目だけを全学年対象とし、区共通項目については５、

６年生だけを対象としました。区教員委員会から求められているのは高学年の児童だけであり、学校の負担を少しでも軽くするためです。以下のアンケート項目のうち、「学校独自項目」とことわっていない項目はすべて「世田谷区共通項目」となり、対象児童は５、６年生だけになります。

回収率は大幅に改善

昨年度の保護者アンケート回収率は、初めて「すぐーる」を使った回収だったため、26.1%いう衝撃的に低い数値でした。今回は、「すぐーる」でリマインドを繰り返すとともに、学校だよりや保護者会での呼びかけなどを熱心にしていただいた結果、以前の紙での調査にだいぶん近づく 70.6%という数値となりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

保護者の評価は↑　児童の評価は↓

まず、アンケートの全体的な傾向についてです。

保護者アンケートは回収率に差がありすぎますので、前年度と単純な比較はできませんが、基本的に前年度より肯定的回答が増えました。逆に児童アンケートは、前年度より肯定的な回答が減る傾向にあります。地域へのアンケートは回答者数自体が増えています。

キャリア教育の「見える化」に課題

まず保護者アンケートの「わからない」という回答に注目してみました。「学び舎」関連は常に「わからない」が多い傾向にあります。今回も「本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成される「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」は 32%、「「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている」も 28%が「わからない」でした。

このほか「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」で 31%が「わからない」と回答しました。キャリア教育については、地域のさまざまな職業の人を招く「リアル職業調べ」を続けるなど、熱心に取り組まれており、単なる職業教育とは違って幅広いとらえ方でもあるのですが、保護者全体には伝わっていないことが判明したと言えます。

さらに、「本校は、地域に情報を提供している。」も 35%が「わからない」でした。地域への情報発信もまだまだ不十分だと言えそうです。

「きまりを守って行動」が低下

児童アンケートでは前年度より特に肯定的な回答の割合が下がったのは、生活指導面の設問でした。「私は、学校のきまりを守って、行動している」が 82.7%で、前年度の 92.2%から 10 ポイント近く低下しました。「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している」も 78.4%（前年度 85.9%）でした。決して低い数値ではありませんが、過去 3 年間維持してきた 80%台を割り込んでしまいました。

学校側からは、これまでの比較的シンプルな「千歳のきまり」が、今年度から詳細な「生活のきじゅん」になったことも影響しているかもしれないという説明を受けました。

タブレット利用を巡るギャップ

児童アンケートと保護者アンケートを比較すると、これまでも指摘してきたことですが、タブレット端末を巡る回答にギャップがあります。

学校独自項目で、児童の「私は、学習用タブレットのルールを守って使うことができる」肯定的な回答が 85%に達しているのに対し、保護者の「本校の児童は、家庭や学校のルールを守って学習用タブレットを利用している」の肯定的な回答は 59%。保護者の否定的な回答は 31%ありました。特に 6 年生の保護者は肯定的な回答が 43%、否定的な回答が 46%で、否定的な回答が肯定的回答を上回ってしまっています。

読書とタブレットを巡って

児童アンケートの独自項目で、「私は、図書の時間以外でも学校の図書室をたくさん利用している」の肯定的な回答は 45%にとどまり、否定的な回答が 50%に達していました。やはり高学年で否定的な回答が多いのは残念です。「たくさん利用」といったハードルの高い聞き方が影響しているという見方もあると思います。次年度は改めて設問の文章を練りたいと思います。

学校関係者評価委員会の会議で特に話題になったのは、タブレットと読書の関係でした。朝読書や休み時間でのタブレット使用のルールが、学級によって少しずつ違いが見られるようになり、改めて「千歳小のきまり」を作成したこと、タブレットが児童に配布されてから、年月とともに児童の使用の仕方やスキルが変化してきたことも聞きました。今後も、児童の実態に応じてルールの見直しをし、学校としてのルールの共通化は必要かと思われます。

また、読書については、千歳小では、朝読書の時間に加えて学習の中でも図書の時間が確保されているので、休み時間など図書の時間以外での学校の図書室の利用への肯定的な回答が 45%にとどまったのかと考えます。子ども基本法もできた中で、タブレットや読書との付き合い方については、子どもたち自身による、子どもたちの考えるルールづくりも積極的に進めてみてはいかがでしょうか。

重点目標の評価について

次に今年度の重点目標に関連する児童アンケートの結果の肯定的評価の数値を見ていきます。４つの重点目標の数値と関連する児童の肯定的評価の割合は以下の通りでした。

【数値目標①】

「自ら課題を見付け、解決のための見通しをもち、必要な情報を収集したり整理分析したりして解決案など自分の考えをまとめ、表現していく探究的な学習が楽しいと感じる児童

の割合を８０％以上にする。」
⇒「私は、自分で課題を見付けて、解決していく学習が楽しい」72.8%
【数値目標②】
「かかわり合う活動を通して自分の良さや他者の良さに気付いたりし、自分の考えをより高めることができたといえる児童の割合を 90%以上にする」
⇒「私は、自分らしさを大切にし、他の友達の良さも大事にしている」87.1%
【数値目標③】
「自己の目標（ゴールイメージ）に向かって、自分であきらめずに粘り強く取り組むことができたといえる児童の割合を 83%以上にする」
⇒「私は、めあてや目標を達成するために、あきらめずに取り組むことができる」79.2%
【数値目標④】
「学習したことから、自分は何ができるかを考え、自ら取り組むことができたといえる児童の割合を 73%以上にする」
⇒「私は、学習したことから、自分は何ができるかを考え、新しいことを考えることが好きである」69.5%

以上のように、4 項目とも目標の数値には届きませんでした。学年によって、差もかなりあるようです。いずれも大切な項目ですが、特に 70%を割った④は 5 年生で 60%でした。いずれも学習に臨む姿勢が問われる設問で、数値を上げていくのは大変な項目ばかりです。保護者に理解してもらうことも重要であり、丁寧な説明が必要だと考えます。

「90%以上が肯定的」も多数

課題のある項目を中心に述べてきましたが、全体としては、児童が肯定的な評価が 90%を超える設問も少なくありません。

児童向けでは、「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」「授業では、考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある」「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」「学校行事は楽しい」「先生たちは、ていねいに指導してくれる」「学校生活は楽しい」といった項目です。

また保護者向けの設問でも、学校行事に関する設問で 90%が肯定的な評価をしているほか、80%台も「本校は、丁寧に指導している」などいくつもありました。よりハイレベルな教育を実現するために、自信をもって進めていただきたいと思います。

地域との関係強化をさらに進めたい

さらに、地域へのアンケートでは回答した 22 人全員が「私は子どもを見守る地域の一員として、日常的に声をかけている」「私は、授業に協力できることがあったら、積極的に行

う」と答えました。

「地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している」の肯定的評価が 60%台とやや低いですが、より知己の意見を取り込みながら関係強化を進めていただきたいです。

評価委員の声

最後に、今回も個々の評価委員からの声をひと言ずつ紹介して、学校関係者評価報告書の締めくくりとします。

「皆さまからのアンケート結果を元に、認知度の低い部分をどのように改善できるのか話し合いました。課題はありますが、今後も学校と協議を進め、試行錯誤ではありますが、前に進んでいきたいと思います」（新井）

「学校関係者評価委員会をとおして、学校の様子や大切にしていることなどを聞く機会があったので、教職員が児童と保護者、地域の人たちとも連携をして、学校をもっと良くしていく強い思いを感じることができました。ぱる児童館は学校とは相互関係の協力体制があり、これからも新 BOP も含めて子どもたちの学校生活の充実に連携して取り組みたいと思います。学校が取り組んでいる内容で周知などの部分では課題がありますが、結果内容と分析については、ぱる児童館のネットワークを通して地域の方とも共有していきたいと考えています」（五十嵐）

「昨年度の課題であった回答数が低かったという結果に対して、今年度対応いただき、回答数の改善が認められたので、私としても何かお役に立てたのではないかと感じています。地域にある学び舎に関心を持ち続けていただくことは重要だと思っています。引き続き、評価委員会の活動を続けていきたいです」（石田）

「アンケートの回収率低下を防ぐためにこまめにお知らせをしてくださり多くのご意見をいただくことができました。保護者として、学校がアンケート結果を受けて今後に活かしておられることを嬉しく思います。回答から地域の方々が学校にとても協力的であることも大変心強く感じました。子どもたちにはこれからも親や先生だけでない、地域のさまざまな大人たちと関わりながら、幅広い体験を通して学習していってほしいと思います」（三田）

「回収率が V 字回復できた点は、様々な改善点が功を奏したものと考えます。しかしながら先生方や委員の皆様のお話を伺うとまだまだできることがあるとも感じました。アフターコロナでマスクやパーテーションがなくなり、私たちの会も少しずつ学校内でのイベントを戻しつつ、また新たなイベント開催にも挑戦しようとしております。昨年まで見送っていた学校内での飲食も可能となり、親と子のサンデースクールでは「手打ちうどん」が復活

したり、木工教室には卒業した中学生も応援に駆けつけてくれたりと、活況を戻しつつ過ごすことができました。地域の一員としては、今年度同様に地域の方々の肯定的意見 100%の項目がもっと増えてほしいと思っています」（櫻井）

「地域のイベントや学校行事が復活していくなかで地域の方々との結びつきが強くなり、子どもたちの学校生活の安全安心がさらに守られていったら良いなと思っております。そのためにも出来ることを少しずつやっていきたいです」（島藤）

「アンケート回収率が回復してよかったです。タブレットの使用ルールや図書館の利用と朝読書の問題は、どこの小学校でも悩みの種のようです。世田谷区内の学校だけでなく、ほかの自治体での参考にできる取り組みが情報共有できるといいなと思いました」（中西）

「特に学校と地域との連携やキャリア教育について、学校が取り組んでいる事が保護者に伝わりきっておらず、もったいないと感じました。教育的なねらいまでは、親子のコミュニケーションだけでは伝わりきらないため、保護者へのお知らせの方法を見直すことで理解は深まるのではと感じます。アンケートの結果は学校のホームページの配布文書>学校関係者評価に公開されています。多くの皆さんにご覧いただけたらと思います」（持田）

――令和５年度　学校関係者評価委員――

新井	佑彌	前ＰＴＡ会長
五十嵐	治道	上祖師谷ぱる児童館長
石田	博	卒業生
櫻井	純一	卒業生
島藤	香絵	保護者
中西	茂	玉川大学教授
三田	恭代	保護者
持田	直	施設利用者代表